# フィールド(現場)からの風 137

宮田守男

## 傍観者ではなく、生きがいが持てる社会
## 参画という視点を意識してみませんか

3月初旬、穏やかな天候が続き、土手にはフクジュソウの花が咲き始めた。しかし中旬には、再び強い冬将軍の影響で大雪。例年なら、スキー場の下部は、黒い地肌が現れるのだが、広がる銀世界の積雪は、例年の倍以上、との報道もされ、春を待つ人々の気持ちを惑わせている。

だが、今年のシーズンに向けて、各方面で活動がスタートしている。3月中旬、白馬村社会福祉ふれあいセンター会議室で開催された「A・コープ白馬店・生産者直売会連絡会」には、「A・コープ白馬店生産者直売コーナー」に野菜等を出荷している生産者が大勢集まった。

説明される売り場管理での商品力アップや、売り場管理レベルの向上について真剣な眼差しで聞き入っている。農業を取り巻く状況は、年々厳しさを増している。特に米価は、大幅に下がり、コメ以外での営農のあり方が、強く求められている。農家所得確保のため、JAの体制も強化しているとの説明にも、高齢者の多い出席者の反応は芳しくない。

### 生産者直売コーナー

球春の便りが頻繁に届く季節。県ソフトボール協会役員総会・中信支部常任理事会総会・白馬地区会役員会が開催され、本年度事業が決まる。特に今シーズンは、県内で全国大会が2大会、北信越大会が5大会開催され、年間30日以上大会で審判に当たる審判員も多い。「ソフトボールが本当に好きでないと出来ない…」の声に皆笑顔になる。県の総会では、大北地域の関係者も表彰される。大町市の佐藤忠さんには日本ソフトボール協会支部功労者表彰が。大町市の平林久保さん、白馬村の吉沢篤さんには県ソフトボール協会表彰が。長年の努力に感謝だ。

3月初旬に諏訪市内で開催された審判員伝達講習会に参加する。1日目は、2015年度のオフィシャル・ソフトボールルールの改正についてだ。国際ソフトボール連盟のルール改正に伴う改正や、新たに改正された点を担当審判員が説明。大きな改正点はなかったが、試合のスピードアップを目標にした改正は、ソフトボールがオリンピック実施種目に、採用され易くするためなのだろう。オリンピックでのテレビ放映権料は、重要な財源だ。試合運営ルールは、テレビ放映権者の意向が強いことは事実だ。いかに試合を短縮するか競技団体の知恵比べだ。野球やソフトボール競技で時間を要する場面がある。

捕手が、攻撃中にランナーになっていて、該当イニングが終了すると、捕手がベンチに戻りプロテクターやレガーズなどの用具の着用で時間を要している場面が多い。この時間を短縮する事を目的に、ルールが改正、新たにテンポラリーランナーのルールが追加採用された。捕手が塁上の走者となって、二死になったり、二死後、捕手が出塁して走者となったとき、攻撃側の監督の選択で、捕手の代わりにテンポラリーランナー(代走者)と交代できるように改正された。この改正は、時間短縮されるだけでなく、これまでと異なった試合展開が予想されるのではと、期待してしまう。

2日目は、実技講習。本年度は、金沢で実施される第1種公認審判員試験を受ける審判員が、ゼッケンを着けて参加。大和電機女子チームの協力での実戦形式の講習は熱が入る。真剣に試合に臨む選手に、公正なジャッジができるか。ボランティア発想での審判では許されない舞台で、普段どおりの審判をできたらと改めて心に誓う。

何気なく過ぎていく日々を悔やむ事のないように、今年こそ勇気を持って社会参画について、多くの人に考えてみてほしいと思っている。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

生産者直売会連絡会横山会長のあいさつ、営農への熱意が伝わってくる